



総合的な学習の時間・教科の授業に使える

教師のための 長崎歴史文化博物館 活用事例集





History culture museum

長崎歴史文化
博物館

総合的な学習の時間・教科の授業に使える

教師のための 長崎歴史文化博物館 活用事例集

ごあいさつ	02
活用事例集作成にあたって	03
長崎歴史文化博物館施設紹介	05
長崎歴史文化博物館資料紹介	12
事例集活用の手引き	16
事例一覧	18
事例案	20
博物館施設を利用するにあたって(Q&A)	72

◎ごあいさつ

平成17年秋、長崎歴史文化博物館がオープンします。

この新しい博物館は、旧県立美術博物館、県立長崎図書館、長崎市立博物館に所蔵されていた資料を核として、近世長崎の海外交流史を一覧することができ、長崎学の研究拠点としての役割を果たすことが期待されています。

また、「交流・発見」を理念に、学ぶ楽しさを発見できる博物館として、本県文化の振興と学術の発展に貢献することを目指しています。

博物館は本物の歴史・文化と直に触れ合い、驚きや感動を味わう場です。学校教育において、博物館の活用を図ることは、子どもたちの学ぶ意欲や学習効果を高める上で、なによりの機会となります。また、子どもたちは郷土の歴史・文化を学ぶことで、地域社会に対する誇りと愛情を抱き、先人の歩んだ道をなぞることで、人生の指針を得ることが出来るでしょう。

本事例集は、長崎歴史文化博物館を活用した教育活動を推進する目的で、小・中・高等学校の先生方に検討を重ねていただき作成したものです。博物館で提供される“本物の資料”との出会いを、教科の授業や総合的な学習の時間、特別活動に活かす様々なヒントやアイデアがまとめられています。本事例集がそれぞれの学校において幅広く活用され、次代を担う子どもたちの健やかな成長と、本県歴史・文化発展のための一助となることを願っています。

最後になりましたが、本事例集の作成にあたり、多大なご尽力をいただいた皆様をはじめ、資料提供等のご協力を賜った皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成17年 3月

長崎県教育委員会
教育長 立石 暁



長崎歴史文化博物館活用事例集作成にあたって

長崎県においては、平成17年秋に長崎歴史文化博物館がオープンします。生涯学習支援活動施設としての機能も充実したものとなります。そこで、本事例集では、児童生徒向けの教育活動及び体験の機会の提供を促進するため、教育の現場で活用されることを願い、博物館が第二の教室になりうることを期待し、小・中・高校の教員によるプロジェクトチームを設置し、以下の視点で学校と博物館の連携を研究してきました。

「総合的な学習の時間」「教科の授業」のねらいに対応できる博物館

■児童・生徒の興味・関心に応じた学習の展開ができる

- ・本物だけがもつ存在感を味わうことができる。
- ・様々な体験ができる施設や展示があるので、多様なニーズに応えることができる。

■自ら考え、自ら学ぶ態度と資質を体得することができる

- ・豊富な資料や情報を取捨選択していく中で、自己の考えを主体的・創造的にもつことができる。
- ・多くの情報を見聞き体験する中で、多様なもののとらえ方や考え方を知ることができる。

■学び方・調べ方がわかる

- ・わかりやすい展示解説や説明を通して、自ら調べる学習ができる。
- ・豊富な資料・パソコン検索・ビデオ映像・参考図書などにより、様々な学び方や調べ方の体験ができる。
- ・職員から直接話を聞くことで、学習課題を深めることができる。

■問題意識と課題解決能力の習得ができる

- ・系統的な展示解説がなされているので理解しやすく、かつ多様な問題意識をもつことができる。
- ・豊富な資料や設備・情報機器により探究活動を支えることができる。
- ・多様な体験活動を通して、自己のもつ問題意識や課題解決能力を養うことができる。

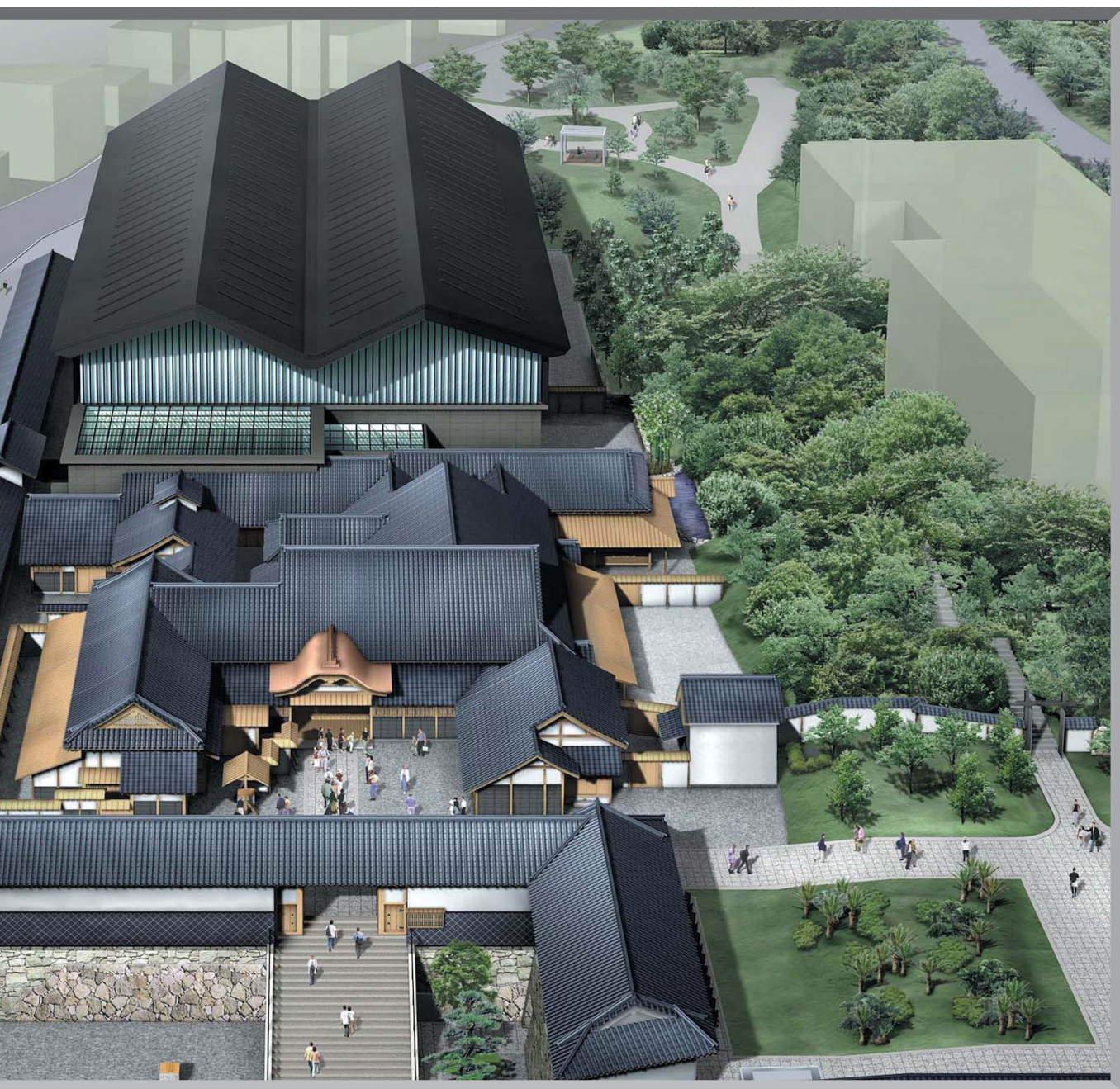
博物館は、各学校の先生方の取組方、活用の仕方しだいが多様な可能性が含まれている場です。この活用事例集が、きっかけとなり、学校と博物館との連携がより一層深まり、児童・生徒の心豊かな教育の一助となれば幸いです。



長崎歴史文化博物館

諏訪の森によみがえる
海外交流の歴史と文化





長崎市諏訪の森地区は、キリシタン時代には「山のサンタマリア教会」が、江戸時代には「長崎奉行所立山役所」や「長崎会所」が置かれ、その後は「英語伝習所」や県立長崎中学校、商品陳列所（長崎市立博物館の前身）や長崎県庁舎なども置かれた、本県有数の歴史と文化を持つ地区です。

長崎歴史文化博物館は、長崎県固有の歴史を一覧できるとともに、長崎学の研究拠点として、「交流・連携・発見」を理念としています。また、学ぶ楽しさや新たな価値観を発見できる博物館として、文化活動の活性化と質の向上を図り、長崎文化・学術の発展をめざします。

長崎ならではの歴史の流れを身近に学び、 長崎学の拠点となる博物館

展示のテーマは近世長崎の「海外交流史」。南蛮文化が到来した大航海時代に始まり、海外に開かれた地であった近世長崎を中心に、豊富な資料でその文化を紹介しています。実物資料を核にすえ、最新の手法によって、わかりやすく楽しい展示となっています。企画展示も「交流」を基本に、国内はもとより海外の歴史や文化を積極的に紹介します。また、長崎奉行の当時の役割や様子をわかりやすく伝える情景展示として、多くの人が楽しみながら学べる展示となっています。

3F

企画展示室

面積1,031㎡。企画展示も「交流」を基本に、国内はもとより海外の歴史文化を積極的に紹介します。大きく1室として使用したり、小さく区切ったりして、小規模から大規模までさまざまな企画展に対応できます。企画展示室を取り囲むようにガラス張りの回廊があり、夜はルーバーから漏れる光により、美しい眺めとなります。

2F

常設展示室

面積1,274㎡。展示のテーマは近世長崎の「海外交流史」。南蛮文化が到来した大航海時代に始まり、海外に開かれた地であった近世長崎を中心に、豊富な史料でその文化を紹介します。実物資料を核にすえ、最新の手法を使い、わかりやすく楽しい展示となっています。事前打ち合わせを行うことにより発達段階や人数に応じた展示解説やTT授業などができます。（事例案参照）また、博物館主催事業としてもギャラリートークが予定されています。

1F

収蔵保存部門

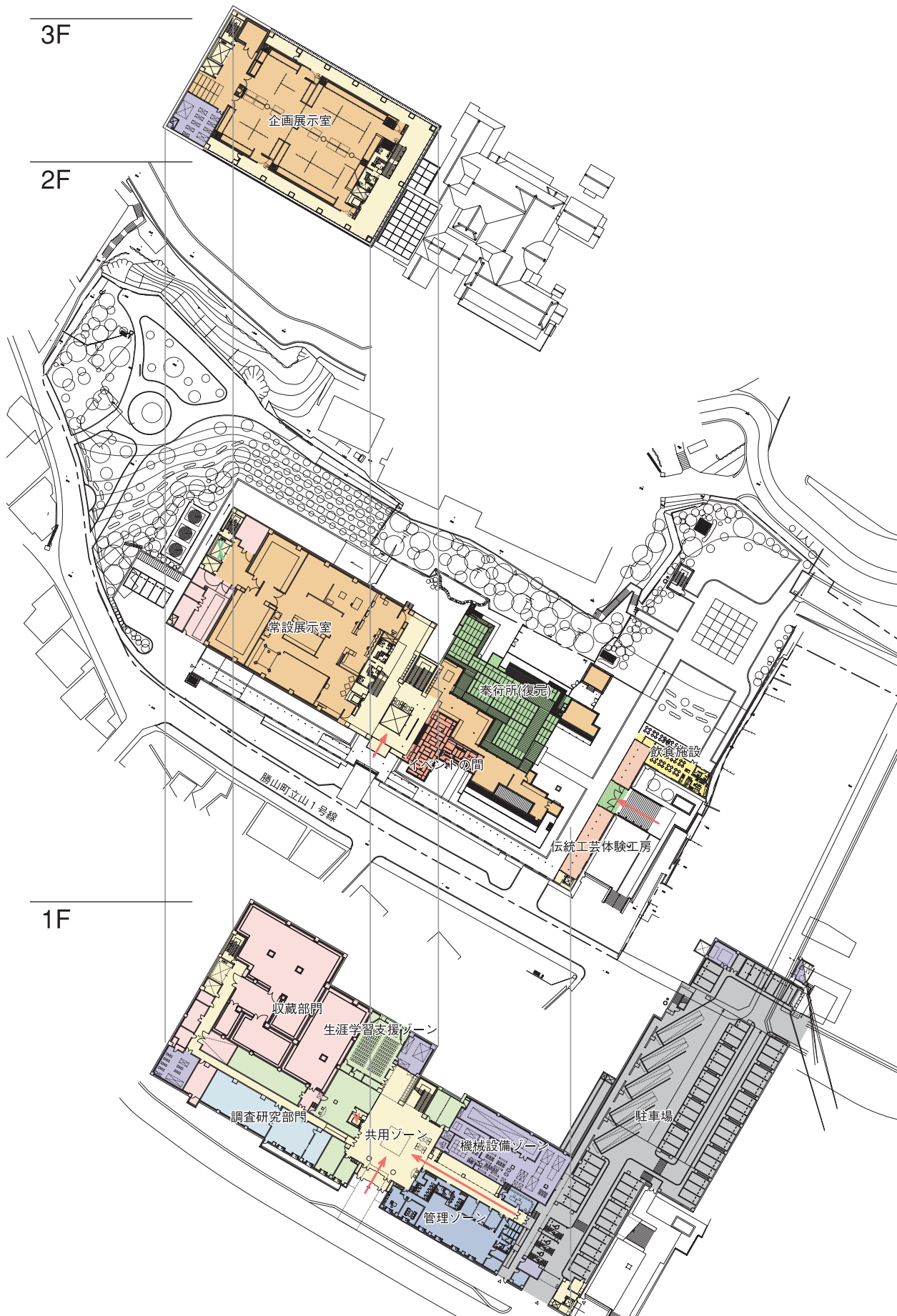
大型トラックを収容可能な作品搬出入口、作品の性質ごとに分割可能な収蔵庫、写真室や保存修復室などが集約されています。事前打ち合わせを行うことにより、普段目にすることができない、これらの施設を見学することも可能です（事例案参照）。

生涯学習支援ゾーン

長崎歴史文化博物館の大きな特徴の一つである長崎学の研究拠点としての機能を持った、外来研究室やレファレンスルームなどがあります。もちろん、学校教育にも対応できます。

管理ゾーン

事務室、館長室の管理部門を集合させた効率的な室構成となっています。

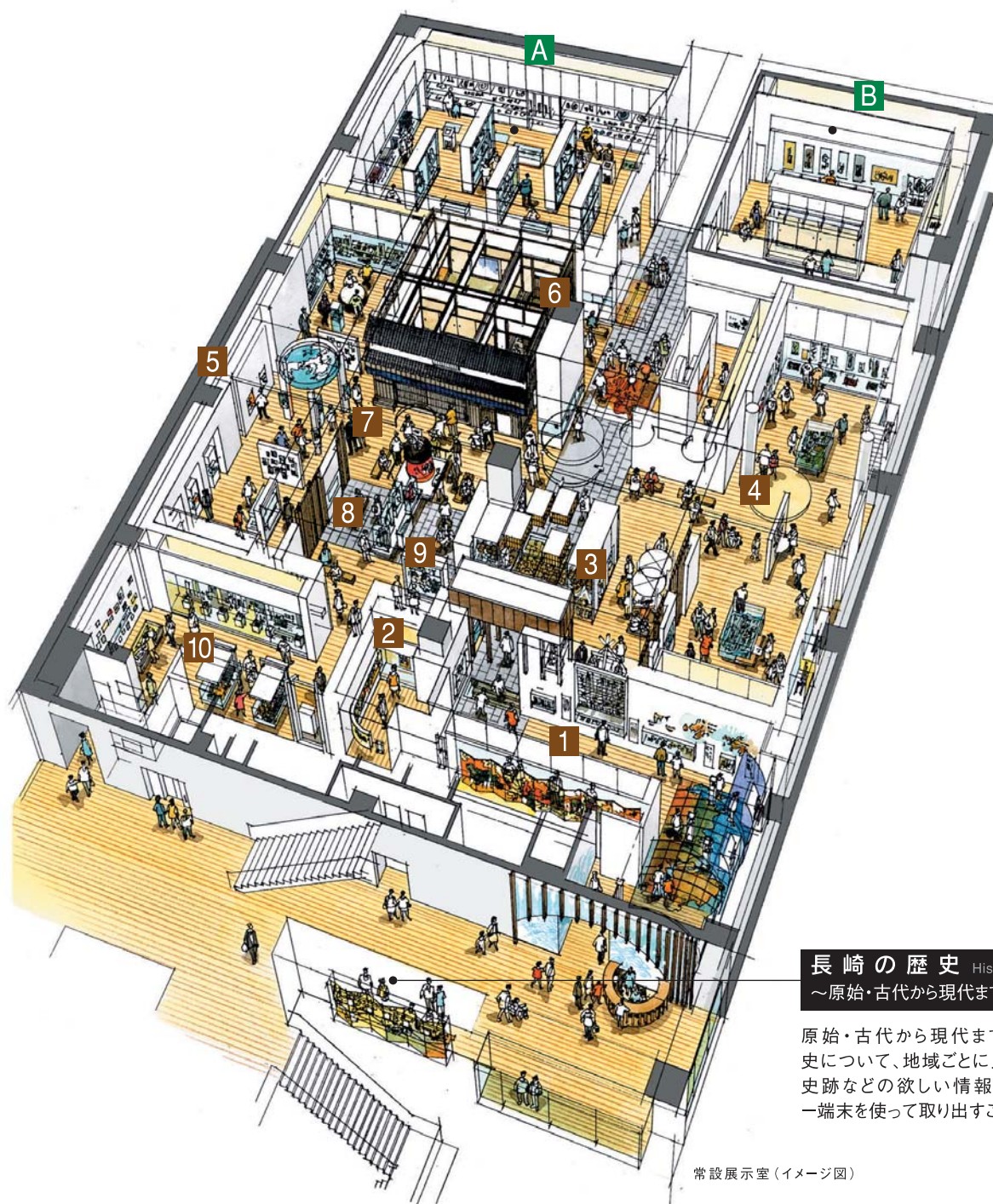


歴史の中に、新しい「長崎」がある

常設展示は、近世長崎の海外交流史をテーマとしています。

中国やオランダ、朝鮮との交流を通して発展してきた長崎の歴史と文化、
海外へ与えた影響などを様々な角度から紹介します。

展示資料は、旧県立美術博物館、県立長崎図書館、長崎市立博物館の所蔵品の中から、
選りすぐりの実物資料を核に据え、「楽しい」、「わかりやすい」、「新たな発見」がある展示とします。



長崎の歴史 History of Nagasaki ～原始・古代から現代まで～

原始・古代から現代までの長崎の歴史について、地域ごとに人物・出来事・史跡などの欲しい情報を、コンピュータ一端末を使って取り出すことができます。

常設展示室（イメージ図）

1 大航海時代

Age of Geographical Discovery

外国船が来航し、南蛮文化が開いた鎖国政策以前の長崎を、平戸商館時代から朱印船貿易、島原の乱まで時代をおって紹介します。

2 朝鮮との交流

Exchange with Korea

対馬を介して行われた日本と朝鮮半島との交流を、朝鮮通信使、日朝外交に活躍した雨森芳洲などを通して紹介します。



「朝鮮通信使絵巻(部分)」(長崎県立対馬歴史民俗資料館蔵)

3 長崎貿易

Trade in Nagasaki

唐船・オランダ船が運んできた生糸・ガラス・薬・象牙・砂糖・書籍など、異国の珍しい品々がどのようなくみで長崎に入り日本全国へ広がったのか、どれほどの価値を持っていたのかが体感できます。

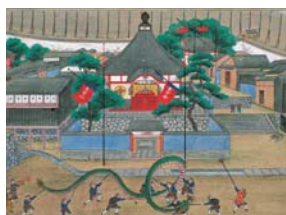


「ビードロ絵入角瓶」

4 中国との交流

Exchange with China

唐人屋敷に滞在していた中国人(来舶清人)が伝えた芸術・文化を紹介します。また、唐寺から広がった石橋などの中国の先進技術や書画など、黄檗文化が日本に大きな影響を及ぼしたことを紹介します。



川原慶賀「唐蘭館絵巻(龍踊図)」

5 オランダとの交流

Exchange with The Netherlands

出島の商館長や商館医と阿蘭陀通詞の交流を通じて西洋の語学・医学・天文学・物理学が伝えられ、長崎で蘭学が始まりました。彼らの業績を実物資料とともに紹介します。



作者不詳「漢洋長崎居留図巻(阿蘭陀屋敷部分)」

6 貿易都市長崎

Nagasaki as a City of Trade

80町からなる貿易都市長崎。それらが貿易や自治・祭りにどのような関わりを持っていたのかを紹介します。また町屋の一部を復元し、実物資料を使って当時の生活が間近で体感できるようにします。



川原慶賀「雑祭図」

7 くんち

Nagasaki Kunchi Festival

長崎の町を象徴する「くんち」の衣装と傘鉾を展示し、映像等によって「くんち」の歴史を紹介します。

8 長崎遊学

Nagasaki as an information clearinghouse on overseas matters

江戸時代、海外からの新知識を求めて日本全国から人々が集まった町長崎。平賀源内、勝海舟といった多くの遊学者の情報を提供するとともに、遊学者関連の資料・史跡も紹介します。

9 長崎警備

Nagasaki as the Strongpoint

長崎は貿易港であると同時に、外国船に対する防衛拠点でもありました。ここでは警備の目的とその重要性を理解できます。

10 日本の近代化と長崎

Modernization of Japan and Nagasaki



幕末の外交の舞台となった長崎の様子と、医学・印刷・造船など日本の近代化の先駆けとなった技術や産業を知ることができます。

「上野彦馬関係資料 写真機」

A 工芸展示

Exhibition of the Craft Arts

長崎の陶磁器・漆器・青貝細工・ガラス・べっ甲細工・金工など、豊富な実物資料を可能な限り数多く展示します。



「青貝細工キャビネット」

B 美術展示

Exhibition of the Fine Arts

ヨーロッパの影響を受けた洋風画や、中国の影響を受けた漢画・南画など長崎ならではの絵画や版画、長崎ゆかりの人物の書跡を展示します。



イエズス会セミナリヨ学舎
「泰西王侯図屏風(部分)」

長崎奉行所立山役所を覗いてみよう

長崎奉行所復元部分は、木造で完全復元する部分と鉄骨造りにして展示ができる部分とに分かれています。
またその中には、畳敷きのイベントの間を設けており、
お茶やお花などの「和」の多彩な催し物が開催できるようになっています。
展示館3階のロビーからは、復元した奉行所の屋根が見えるようになっています。
これにより、復元した奉行所の建物そのものが大きな展示物となりました。

長崎奉行所展示室

Exhibition of Nagasaki Magistrate's Office

1 長崎奉行所立山役所のあらまし History of Nagasaki Magistrate's Office, Tateyama Branch

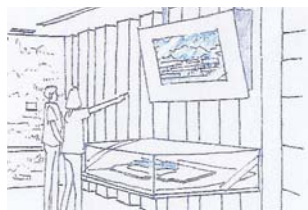
長崎奉行所の成立や変遷を、絵図面や出土品などを通して紹介します。



「在長崎日清貿易図（部分）」（松浦史料博物館蔵）

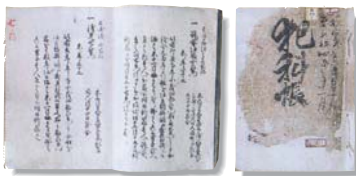
2 長崎奉行の職務 Duties of Nagasaki Magistrates

長崎奉行は、行政・司法・外交・貿易・軍事全般とキリシタン・密貿易の取締りなど、多岐にわたる職責を担っていました。その職務内容をわかりやすく紹介します。



3 犯科帳の世界 Previous Trial Records

「犯科帳」とは、長崎奉行所の裁判記録です。この中から、長崎ならではの犯罪である密貿易や漂流民に関する興味深い事件などを取り上げます。



「犯科帳」

4 歴代長崎奉行 History of Nagasaki Magistrates

127代を数える歴代長崎奉行を紹介するとともに、遠山景晋（遠山の金さんの父）をはじめ、歴史に名を残した奉行の業績などを、在任した時代背景と照らし合わせながら紹介します。



フェートン号事件で切腹した松平図書頭が用いた中啓（ちゅうけい・儀式用の扇子）

5 キリシタン関連資料展示 Exhibition of Materials on Christianity

長崎奉行の職務の一つであったキリシタン取締りに用いた踏絵や、没収したロザリオなど、かつて長崎奉行所の宗門蔵に収められていた品々（現、東京国立博物館蔵）などを展示します。



国指定重要文化財「板踏絵」（東京国立博物館蔵）

6 立体映像シアター 3D Theater

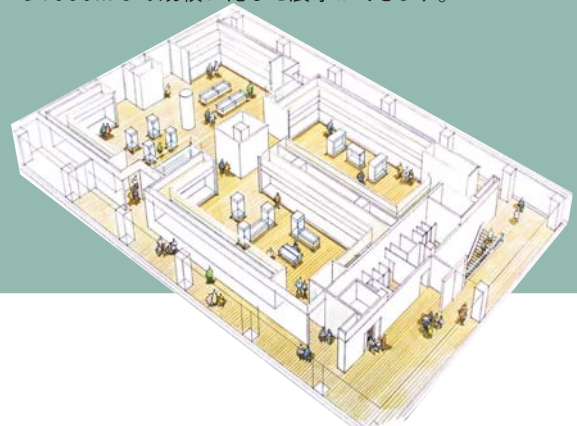
長崎奉行の職務であった外国使節を応接する場面や、江戸時代の長崎の街中などを、迫力ある立体映像により実感することができます。



企画展示室（本館3階）

Program Exhibition Gallery

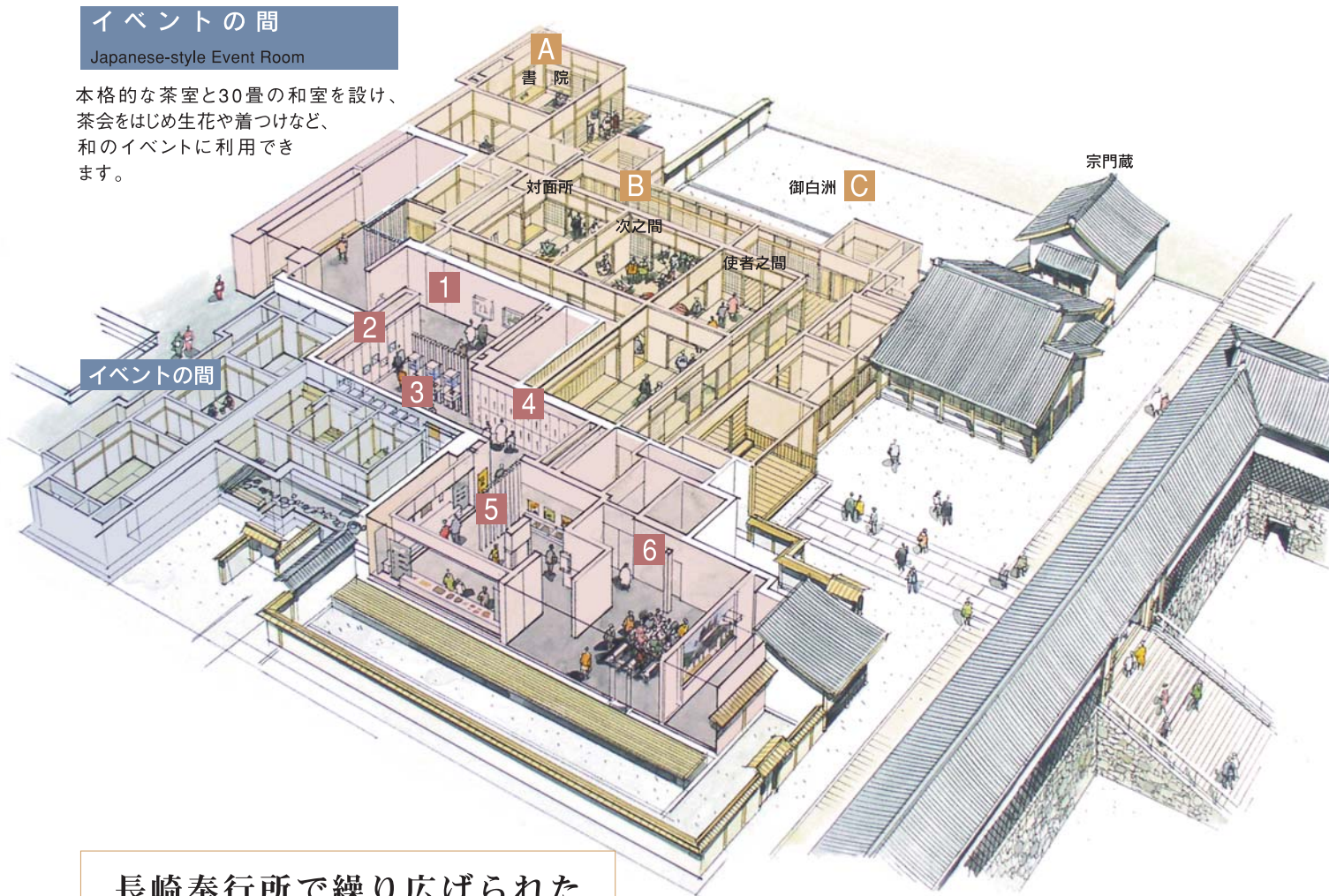
大規模な全国巡回展や、長崎ならではの多彩な企画展を開催します。部屋を4つに区切ることもでき、200㎡から1000㎡まで規模に応じた展示ができます。



イベントの間

Japanese-style Event Room

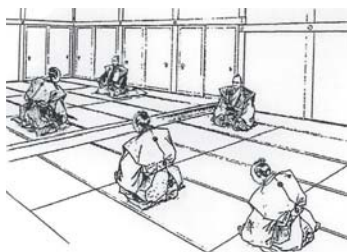
本格的な茶室と30畳の和室を設け、茶会をはじめ生花や着つけなど、和のイベントに利用できます。



長崎奉行所で繰り広げられた 情景を再現します

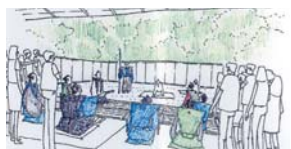
A 書院 Drawing Room in the "Shoin" Style of Japanese Traditional Architecture

外国使節や福岡・佐賀藩主の応接など、特に重要な職務の際に使われた部屋です。その場面などを再現します。



C 御白洲 "Oshirasu" (Interrogation) Room

テレビや映画などでおなじみの御白洲の情景です。長崎ならではの密貿易者や漂流民を取り調べている場面を再現します。



B 対面所・次之間・使者之間 Viewing Room/Anteroom/Envoy's Room

面会や控え室などのほか、オランダ船や唐船が運んできた積荷を大改（おおあらため・長崎奉行の検分）する際にも使われた部屋です。生糸や反物、象牙などの輸入品を展示することで、当時の貿易の一端が垣間見られます。



「在長崎日清貿易図（部分）」（松浦史料博物館蔵）

歴史文化博物館の主な展示資料

テーマゾーン	大項目（コーナー）	展示資料
A.大航海時代 ポルトガル船の来航を展示全体のプロローグとし、自由貿易の拠点として、また西洋文化の発信拠点として繁栄した鎖国以前の長崎の姿を紹介	1.プロローグ ヨーロッパとの出会い	バイハイム地球儀（複製） オルテリウス世界図
	2.平戸への来航、そして長崎開港へ	六町町建時（元亀2年）の長崎エッチング地図 内町完成時（寛永6年）の長崎エッチング地図
	3.キリスト教と南蛮文化	メダイ・花十字瓦（万才町遺跡） 南蛮人交易図
	4.自由貿易の拠点都市長崎	朱印船貿易 長崎から東南アジアをめざした商人たち 荒木船絵図（模写）
	5.南蛮屏風に描かれた国際都市・長崎	南蛮屏風を読み解く 南蛮人来朝之図
	6.出島と“鎖国”の時代へ	島原の乱…大航海時代の終焉 原城出土遺物 出島の誕生 江戸時代に開かれていた海外交流の窓口
B.朝鮮との交流 朝鮮との友好関係を紹介	1.日本と朝鮮の交流関係	解説「対馬藩を介した日朝の国交と交易」
	2.朝鮮通信使	映像「朝鮮通信使行列絵巻」 解説「朝鮮通信使」
	3.日朝外交をめぐる人々	雨森芳洲肖像・解説「雨森芳洲の交隣外交」
C.長崎貿易 オランダ・中国との貿易の窓口となった鎖国下の長崎を、貿易の実態や、貿易による国内外の影響について紹介	1.長崎への入港	オランダ船、唐船の到着 唐船（福州島船、紗船）
	2.オランダ船、唐船が運んできたもの	日本人が求めた舶来の品々 反物見本帳（各種）・砂糖寄（太白、黒、氷等） 鯨寄、熊寄等・西洋ガラス製品 縄屋版駱駝図（長崎古版画） 映像「オランダ船の入港から出帆まで」 映像「唐船の入港から出帆まで」
	3.オランダ船、唐船の積荷の価値	「いくらで買える？江戸時代の輸入品」 オランダ船唐船が運んできた積み荷のいろいろ さて、お値段は？ 積荷を調べてみよう
	4.貿易品の国内流通	長崎～江戸 砂糖の旅
	5.幕府直営長崎貿易	情報検索「長崎貿易」
	6.オランダ船、唐船が求めたもの	日本が求められた貿易品とその変遷 VOCコイン・コンプラ瓶
D.中国との交流 長崎文化に色濃く残る中国の影響を、中国人が市中に居住していた唐人屋敷以前からの交流史とともに紹介	1.航海の守護神 媽祖	媽祖像
	2.よみがえる唐人屋敷	唐人屋敷模型・唐人屋敷バーチャルツアー 唐人屋敷ができるまで 絵巻が教えてくれるもの～唐人屋敷編～ デジタル絵巻「絵図で読み解く唐人屋敷」 「唐館図絵巻」（石崎融思） 「漢洋長崎居留図巻」（筆者不詳）
	3.来舶清人との交流	唐人屋敷の文化人 来舶清人 木下逸雲使用琵琶 1棹
	4.唐寺 日中文化の交流拠点	解説「唐寺 日中文化の交流拠点」 福濟寺模型
	5.黄檗 唐寺から広がった新文化	唐僧肖像画（隠元・木庵・即非・独立） 唐様 唐僧の書画の影響 黄檗文化の広がり
	6.石橋 唐寺から広がった大陸の技術	解説「石橋 唐寺から広がった大陸の技術」 石橋築造風景模型 石橋築造技術の広がり

テーマゾーン	大項目（コーナー）	展示資料
E. オランダとの交流 出島でのオランダとの交流は、鎖国したの日本にとって唯一の西洋との接点であり、学術・文化の交流窓口としての出島の役割に着目し、交流に活躍した人々の業績を紹介	1. 日本と世界の情報窓口出島	出島に集まる世界の情報 「出島図」（川原慶賀 筆） 西洋の香りを運んだ文物（コーヒーミル）
	2. 蘭学は長崎ではじまった	日本とオランダの橋渡し役・阿蘭陀通詞 ドゥーフ・ハルマ辞書 シーボルトの薬箱とガラス瓶 「鎖国論」（志筑忠雄）・「阿蘭陀地球図説」
	3. 日蘭文化の出会いと融合	長崎版画に描かれたオランダ人、日本の絵師が描いたオランダ人 西洋への好奇心。生活の中の紅毛文化
	4. 日本とヨーロッパを結んだ人々	出島商館長と商館医 出島門鑑 デジタル絵巻「絵図で読み解く出島のくらし」 「漢洋長崎居留図巻」 商館長ティツィング、ドゥーフ、ブロンホフ 商館医ケンペル、ツェンベリー、シーボルト
	5. オランダの日本コレクション	商館長、商館医がヨーロッパに持ち帰った文物
F. 貿易都市長崎 80町からなる貿易都市長崎の自治のしくみを紹介するとともに、町家の一部を復元し、江戸・京都・大阪と並ぶ近世都市長崎の町人のくらしや文化を紹介	1. 寛文長崎図に見る貿易都市長崎の賑わい	「寛文長崎図屏風」 寛文長崎図ヴァーチャルウォークシアター 貿易都市長崎の完成
	2. 貿易都市の発展	長崎惣町絵図を歩く 長崎町ナビ
	3. 貿易都市を支えるしくみ	桶屋町の一年～貿易都市を支える仕事と行事～ 貿易都市・長崎要覧 「惣町ヶ所数 控一通」
	4. 貿易都市の人々のくらし	長崎の町屋 乙名の一年・乙名のすまい・乙名の仕事とくらし 映像「長崎歳時記」
G. くんち	くんちの歴史や、くんちをめぐる歳時記を紹介。	くんちは時代とともに 「諏訪神社神事御供町行之図」（森永屏風） くんち衣装各種
H. 長崎遊学	全国各地からの遊学者情報をデータベース化して検索、長崎で世界にふれた歴史的人物を紹介	長崎を訪れた人々 全国遊学者一覧 「西遊旅譚」
I. 長崎警備	長崎警備の成立背景を紹介し、国内で唯一外国船に対する警戒態勢が恒常的に敷かれていた長崎の特殊性を浮かび上がらせる	「長崎港外警備之図」 「葡萄牙船入港ニ付長崎警備図」（正保4年） 長崎警備のしくみ 「西泊御番所絵図」 台場と番所～防衛の最前線基地 遠眼鏡
J. 日本近代化と長崎 長崎の伝習所（海軍・医学・英語・活版）を発祥とする技術や産業を紹介し、日本の近代化が長崎から始まったことを伝え、歴史文化展示のエピログとする	1. 長崎から見る幕末の世界と日本	東アジアに迫る列強の圧力 開国への秒読み その時世界は、長崎は 「フェートン号航海日誌」 「阿蘭陀使節立山役所に到るの図」 「別段風説書」・「日蘭条約書」
	2. 日本の近代化は長崎から始まった	長崎海軍伝習所 日本の科学技術発展の原動力 日本最初の蒸気軍艦スームピング号 蒸気機関車も長崎から・日本最初の鉄橋 最古の造船用ドック（小菅ドック） 医学伝習所～日本近代医学の原点～ 英語伝習所～語学教育の原点～ 活版伝習所～日本の近代印刷が始まった場所～ 日本のメディアの先駆 本木昌造の新聞 「崎陽雑報」「長崎新聞」（明治8年）
	3. 長崎居留地	居留地の誕生 「長崎居留地地割図」 出島の消失～長崎港発展の陰で～ 居留地とともに生まれた長崎風景
	4. 国際交流県長崎	長崎県の誕生 映像「受け継がれる海外交流の伝統 そして未来へ」

魅力あふれる博物館の名品たち(美術・工芸展示)

長崎の歴史 | 南蛮貿易 |

天文12年(1543)ポルトガル人が種子島へ、天正12年(1584)スペイン人が平戸へはじめて来航して以来、日本との間で貿易が行われました(南蛮貿易)。貿易の利益に目をつけた九州の諸大名は、キリスト教とともに積極的に彼らを迎え入れました。彼らのもたらすヨーロッパの文化や風俗は、当時の日本人の興味をそそり異国趣味が流行しました。南蛮文化に影響を受けた絵画や工芸品を南蛮美術と呼んでいます。

長崎の歴史 | キリスト教 |

元亀2年(1571)キリシタン大名大村純忠によって、ポルトガルとの貿易港として長崎に港が開かれました。天正8年(1580)純忠は、長崎と茂木の地をイエズス会に寄進したので、教会領となった長崎はキリスト教布教の中心地となり、聖堂や学校、病院など多くの施設が作られました。慶長19年(1614)、江戸幕府によってキリシタンの一掃がはかれるまで、キリスト教を中心とした文化が栄えました。

長崎の歴史 | 鎖国時代 |

寛永16年(1639)徳川幕府はポルトガル船の来航を禁止し、寛永18年には、平戸からオランダ商館を長崎の出島に移して、ヨーロッパとの交易を長崎に限定しました。

こうした鎖国時代に、海外の文化を取り入れる重要な窓口となった長崎には、中国の唐船によって明清の文化、オランダ商館を通じてヨーロッパの文化が紹介されました。そのため、異国の文化の影響を受けた絵画(長崎派)、書道、漆工芸、ガラス、べっこう細工など、長崎独自の美術工芸が発達しました。

長崎の工芸

長崎の美術工芸の発達は、南蛮貿易時代にはじまります。この時代に伝えられた工芸には、「南蛮油絵、眼鏡細工、時計細工、染物、玉細工、ガラス細工、鋳物」などがあったといわれています。

鎖国時代になると、唐船によって来日した中国や東南アジアの人々によって「唐様鋳物、塗物(堆朱、沈金、青貝など)、染唐紙、造花、数珠、唐風竹細工、唐船大工、石橋唐風石工、唐菓子」など「唐伝」または「唐様」と呼ばれる工芸が伝えられました。

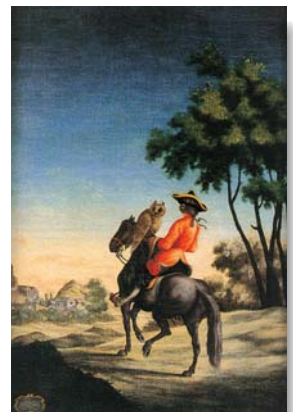
これらは、公的に任命された細工人によって模写・模造、製法の研究などが行われ、わが国の工芸の発達にも大きな影響を与えられました。



イエズス会セミナリヨ学舎 泰西王侯図屏風(慶長19年頃/ca1596-1614)



筆者不詳 弾琴図
(慶長年間/1596-1614)



若杉五十八 鷹匠図
(寛政3年頃/ca1791)



【南蛮漆器】螺鈿蒔絵菱形文洋筆箱



【青貝細工】蒔絵花鳥文飾棚



【長崎ガラス】松竹梅盆栽



【平戸焼】染付山水文鯉耳花瓶



【沈 南蘋】樹下双猿之図



【河村若芝】豊干之図



【長崎古版画】象



【長与焼】三彩花筒



【逸 然】寒山拾得図



【熊斐】柳下鷗図



【現川焼】打刷毛目文隅切角皿



【亀山焼】染付祥瑞文水甕